

今月はICOの11月コーヒーマーケットレポートに加え、NCA、SCA、FNCのホームページから皆さんがご興味のあるトピックスを4件お届けします。



ロブスタコーヒーが下落し、コーヒー価格は下がった。

11月の月間平均ICO複合指標価格は、10月に比べ2.3%下がり117.26米セントとなった。ただ、この下げの殆どが、11月の月間平均グループ指標価格が91.33米セント/B となり7.2%も下落したロブスタグループによるものだった。2017年10月の総輸出量は前年同月比11.4%減少し8.8百万袋となった。アラビカコーヒーの10月の輸出量は9.9%減少し5.7百万袋だった。このレポートの最後に書いているように中米・メキシコ地域の何か国かのコーヒー生産量は数年前のサビ病勃発時に比べるといくらか回復しているようである。2016/17年度のコーヒー生産量を見るとホンジュラスとニカラグアはサビ病以前の水準を超えるまでに回復している。しかし、グアテマラとサルバドルは2012/13年度及び2013/14年度の最悪期は上回ったとはいえサビ病以前の平均生産量水準にまでには回復していない。

図 1: ICO 日次複合指標価格

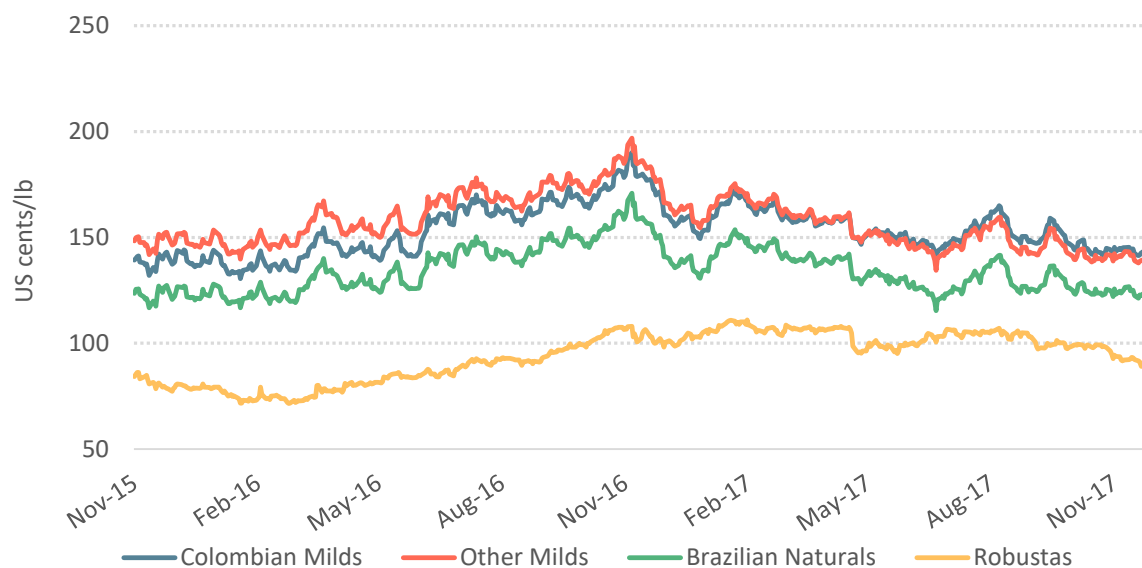


© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

2017年11月のICO複合指標価格は先月に続き下がったが、この下げの殆ど全てがロブスタ価格の下げによるものだった。月間平均複合指標価格は10月に比べ2.3%下げ117.26米セント/LBとなった。

2010年以降の各年の11月の月間平均価格を比べてみると、2017年11月の複合指標価格より低かったのは2015年の11月（115.03米セント/LB）と2013年11月（100・99米セント）のみである。

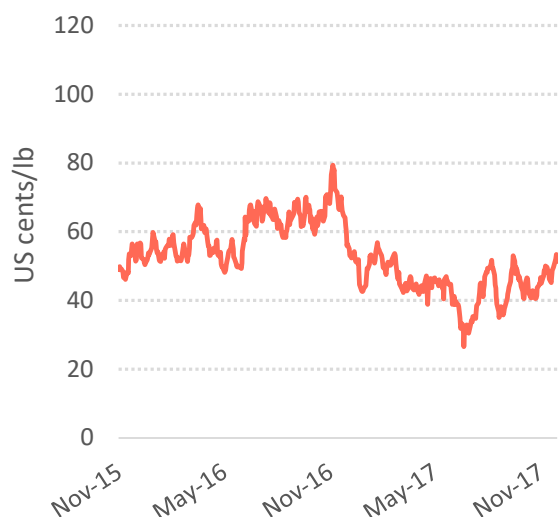
図 2: ICO日次グループ指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

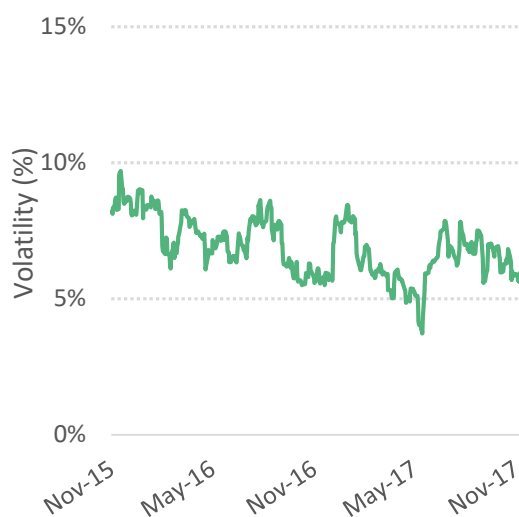
アラビカグループ指標価格は総じて安定していた。2017年11月の全アラビカグループの月間平均価格は10月に比べ0.5セントを下回る僅かな下げに留まった。しかし、ロブスタグループの月間平均価格は7.2%下げ91.33米セントとなった。ニューヨークとロンドン先物市場で測られるアービトラージの11月平均価格は13.8%上昇し48.50米セント/LBとなった。一方、ICO複合指標価格の価格変動率は0.4%縮小し5.4%になった。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

図 4: ICO複合指標価格の30日移動平均価格変動率



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

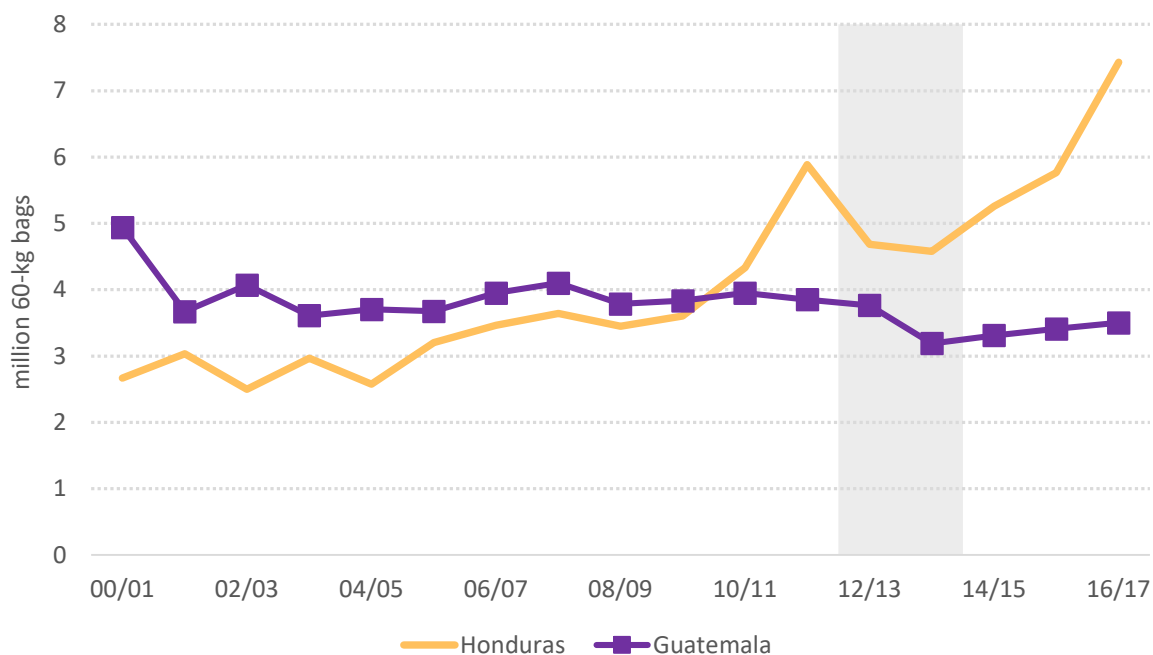
新コーヒー年度の最初の月の総輸出量は前年同月に比べ11.4%少ない8.8百万袋となった。アラビカコーヒーの輸出量は9.9%減の5.7百万袋だった。ロブスタコーヒーの輸出量は前年同月比14%少ない3.10百万袋だったが、これは推定30.3%輸出が減少したベトナムに起因するものである。2017年10月の総輸出量は減ったとはいうものの、直近12か月間（2016年11月～2017年10月）の世界総輸出量は前年同期間に比べ2.4%の増加となっている。

10月の地域別輸出量を見ると殆どの地域が前年に比べ減少している。アジア・オセアニア地域の2017年10月輸出量は前年比18.7%少ない2.87百万袋であり、南アメリカ地域の輸出量は14%減り4.55百万袋だった。南アメリカ地域についてはブラジル（-18.3%）、とコロombia（-8.7%）の輸出が減少した結果である。ブラジルはアラビカの2年生産サイクルによる減産で輸出可能生産量が減ったことによるものであり、コロンビアは豪雨の影響で2017/18年度の収穫が遅れたことによるものである。中米・メキシコ地域の輸出量は前年10月に比べ3.2%減少した。これは主に輸出量が67.1%減ったコスタリカと20.2%減少したホンジュラスに起因するものである。しかし、2017年10月のホンジュラスの輸出量は、ここ5年間の平均輸出をかなり上回る数量である。対照的に、アフリカ地域の2017年10月の輸出量は0.28%増え0.98百万袋だったが、これはウガンダ（+82.5%）とエチオピア（+31.8%）の輸出増によるものである。

しかし、2017/18年度の第一回世界コーヒー生産量予測が0.8%増の158.69百万袋となっているので、今コーヒー年度中には輸出は盛り返してくるだろう。南米のコーヒー生産量は、ブラジルが2017/18年度は減産予想の為、3.1%の減産見通しである。アフリカの生産量は全体で4.1%の増産予想だが、これは主にウガンダに於ける更新プランが実を結び新木が実を結び始めたことによる増産に起因するものである。アジア・オセアニア地域の生産量も4.4%の増産予想であり、これは地域最大、世界2番目のコーヒー生産国ベトナムの生産量が好天・降雨のお陰で増えることが見込まれることによるものである。中米・メキシコ地域の2017/18年度は4.3%の増産予想だが、これは2016/17年度の16.3%の増産に続くもので、これらの生産国がこの地域で数年前に勃発したサビ病被害から回復していることを示すものである。

ホンジュラスのコーヒー生産量は、サビ病勃発以前は年率6.8%程で増えており、2011/12年度には5.89百万袋になっていた。しかし、その後の2年間で生産量は22.2%減少した。しかし、サビ病対策としてサビ病耐性のある新品種への植え替えや農家への技術支援など積極的な努力が行われた。結果、2014/15年度以降は、生産量は年率12.2%で増え、2016/17年度には7.43百万袋の新記録を達成したのである。2017/18年度は生産量予想は8.35百万となっている。

図 5: コーヒー生産量 (収穫年度)

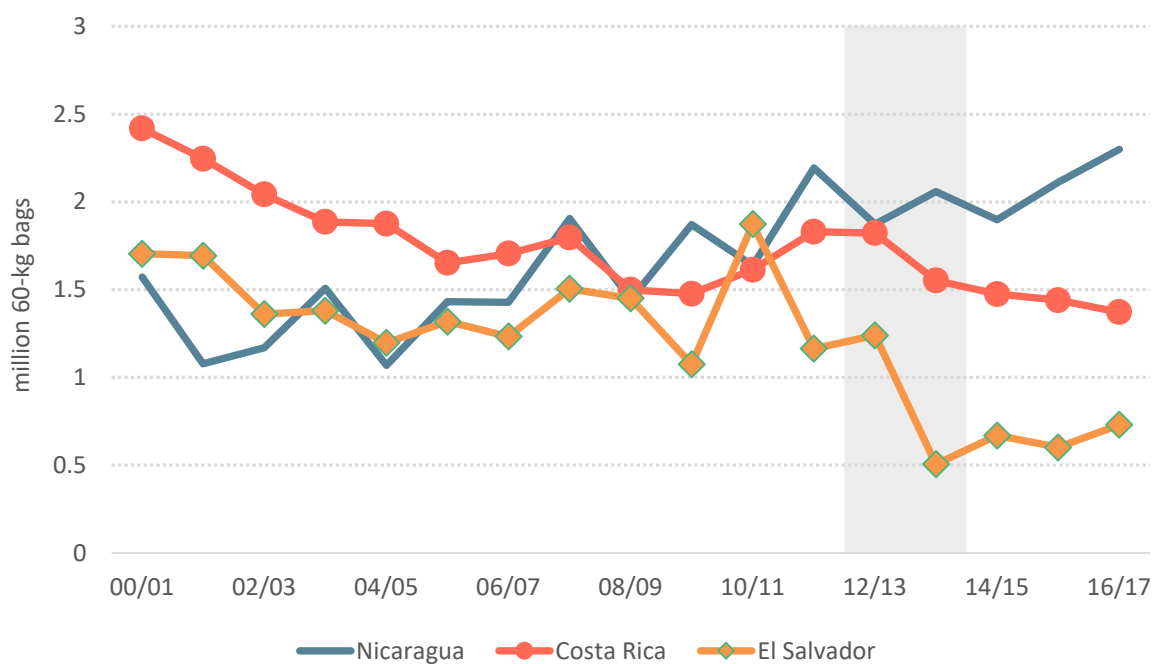


© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

グアテマラの生産量は2000/01年度から2012/13年度の間、平均年率2.1%で生産量が減っている。2011/12年度から2013/14年度の間には生産量は17.2%減少し、3.19百万袋まで落ちたが、これは1988/89年度以降で最も少ない数量である。グアテマラのコーヒー農家はサビ病対策として苗の植え替えや剪定を行ったり、新農法を採用したり、農園の消毒（fumigation）を行った。これらの努力の結果、2014/15年度のコーヒー生産量は3.31百万袋となりその後の2年間も生産量は増えている。

コスタリカとサルバドルのコーヒー生産量は両国とも2000/01年度以降夫々年率2.3%と3.1%で生産量が減っている。サビ病の勃発は両国に更なる減産をもたらし、2011/12年度から2013/14年度にコスタリカでは15.2%のエルサルバドルでは56.5%の大減産となった。サルバドルの生産量は2013年の0.51百万袋以降は漸増していると言うものの、サビ病前の平均生産量水準に比べると大幅に下回っている。一方、コスタリカの生産量は、最近3年間の減産速度はサビ病前の率(漸減)に戻ったと言うもののサビ病以降増えていない。しかし、2017/18年度の第一回生産量予測は1.56百万袋の増産となっている。

図 6: コーヒー生産量 (収穫年度)



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

ニカラグアのコーヒー生産量は2000/01年度から2011/12年度の間、年率2.8%で増えている。2011/12年度に2.19百万袋を付けた後2012/13年度には1.87百万袋迄落ちた。しかし、その後はこの地域の他の生産国とは違い2013/14年度の生産量は2.06百万袋に増え、翌収穫年度は1.90百万袋となった。しかし、それ以降生産量は年率6.6%で増えており2016/17年度は2.3百万袋の予想である。

表 1: ICO 指標価格と先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Nov-16	145.82	177.85	184.12	157.72	103.72	165.24	95.40
Dec-16	131.70	156.64	161.78	137.14	101.85	143.04	93.66
Jan-17	139.07	164.96	168.61	145.70	108.32	152.24	100.24
Feb-17	137.68	163.67	166.35	145.50	106.49	148.64	98.46
Mar-17	134.07	158.40	160.15	139.67	106.73	143.38	99.01
Apr-17	130.39	154.97	155.40	136.09	103.58	139.25	95.34
May-17	125.40	151.41	150.00	131.21	98.36	135.45	90.35
Jun-17	122.39	146.12	143.22	123.71	101.95	128.18	93.11
Jul-17	127.26	152.51	149.66	129.19	104.94	135.71	96.03
Aug-17	128.24	155.15	149.88	131.93	104.52	138.11	94.89
Sep-17	124.46	151.47	146.56	129.67	99.18	135.95	89.69
Oct-17	120.01	144.26	140.71	124.55	98.39	131.00	88.38
Nov-17	117.26	144.09	140.90	124.28	91.33	129.96	81.46
% change between Nov-17 and Oct-17							
	-2.3%	-0.1%	0.1%	-0.2%	-7.2%	-0.8%	-7.8%
Volatility (%)							
Oct-17	5.8%	6.5%	6.8%	7.5%	5.0%	8.5%	6.0%
Nov-17	5.4%	5.8%	6.0%	6.9%	5.1%	6.8%	5.7%
Variation between Nov-17 and Oct-17							
	-0.4	-0.7	-0.8	-0.6	0.1	-1.7	-0.3

* Average price for 2nd and 3rd positions

表2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Nov-16	-6.27	20.13	74.13	26.40	80.40	54.00	69.84
Dec-16	-5.14	19.50	54.79	24.64	59.93	35.29	49.38
Jan-17	-3.65	19.26	56.64	22.91	60.29	37.38	52.00
Feb-17	-2.68	18.17	57.18	20.85	59.86	39.01	50.18
Mar-17	-1.75	18.72	51.66	20.48	53.42	32.94	44.37
Apr-17	-0.43	18.88	51.40	19.31	51.82	32.51	43.92
May-17	1.41	20.20	53.05	18.79	51.64	32.85	45.09
Jun-17	2.89	22.41	44.17	19.51	41.28	21.76	35.07
Jul-17	2.85	23.32	47.57	20.47	44.72	24.25	39.68
Aug-17	5.27	23.22	52.18	17.95	46.91	28.96	43.22
Sep-17	4.91	21.80	52.29	16.89	47.38	30.49	46.26
Oct-17	3.55	19.70	45.86	16.16	42.32	26.16	42.62
Nov-17	3.19	19.81	52.76	16.62	49.57	32.95	48.50
% change between Oct-17 and Sep-17							
	-10.1%	0.6%	15.0%	2.8%	17.1%	26.0%	13.8%

* 第2限月と第3限月の平均値

表 3: 世界コーヒー需給バランス

Crop year commencing	2013	2014	2015	2016 ^{1/}	2017 ^{2/}	% change 2015-16	% change 2016-17
PRODUCTION	152 232	149 053	152 253	157 437	158 686	3.4%	0.8%
Arabica	90 284	86 257	88 568	101 552	97 533	14.7%	-4.0%
Robusta	61 948	62 796	63 686	55 885	61 153	-12.2%	9.4%
Africa	16 244	16 014	16 349	17 208	17 918	5.3%	4.1%
Asia & Oceania	46 453	45 974	49 566	45 083	47 081	-9.0%	4.4%
Mexico & Central America	16 717	17 115	17 423	20 269	21 147	16.3%	4.3%
South America	72 818	69 951	68 966	74 877	72 541	8.6%	-3.1%
CONSUMPTION	149 022	151 758	155 469	155 061	157 597	-0.3%	1.6%
Exporting countries	46 109	47 245	48 244	48 298	49 088	0.1%	1.6%
Importing countries ^{3/}	102 913	104 513	107 225	106 763	108 509	-0.4%	1.6%
Africa	10 597	10 754	10 794	10 735	10 801	-0.5%	0.6%
Asia & Oceania	30 701	32 550	33 611	33 669	34 701	0.2%	3.1%
Mexico & Central America	5 156	5 235	5 306	5 237	5 340	-1.3%	2.0%
Europe	50 179	50 912	51 590	51 544	52 023	-0.1%	0.9%
North America	27 706	27 359	28 931	28 535	28 949	-1.4%	1.5%
South America	24 682	24 949	25 237	25 341	25 784	0.4%	1.7%
BALANCE	3 210	-2 705	-3 216	2 376	1 089		

In thousand bags

1/ Estimated

2/ Projected

3/ Coffee years

表 4: コーヒー 輸出国の総輸出力

	October 2016	October 2017	% change	November - October		
				2015/16	2016/17	% change
TOTAL	9 928	8 800	-11.4%	117 498	120 355	2.4%
Arabicas	6 322	5 698	-9.9%	72 354	76 234	5.4%
Colombian Milds	1 315	1 210	-8.0%	13 588	14 552	7.1%
Other Milds	1 564	1 508	-3.6%	23 692	27 121	14.5%
Brazilian Naturals	3 443	2 980	-13.4%	35 075	34 561	-1.5%
Robustas	3 607	3 102	-14.0%	45 144	44 121	-2.3%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	Nov-16	Dec-16	Jan-17	Feb-17	Mar-17	Apr-17	May-17	Jun-17	Jul-17	Aug-17	Sep-17	Oct-17	Nov-17
New York	1.42	1.40	1.45	1.49	1.53	1.58	1.65	1.70	1.73	1.86	2.03	2.15	2.17
London	2.38	2.39	2.73	2.80	2.85	2.87	2.87	2.81	2.63	2.52	2.52	2.19	2.20

単位：百万袋

—トピックス (1) —

2017 年 11 月 9 日、全米コーヒー協会

Jeremy Glass 氏寄稿 (Thrillist 編集)

あなたが信じてはいけない 10 のコーヒー伝説

コーヒーに纏わる多くの神話を考えているとあなたモーニングコーヒーを楽しめなくなるとかもしれない。例えば、『コーヒーを飲むとトイレが近くなる』があるが、人によってはこれに当てはまる人がいるかもしれないからだ。しかし、これ以外にもあなたのコーヒーをまずくする多くの神話が存在する。これら 11 の神話を全て飲み干して（消化して）目覚めて欲しい。

神話 1. あなたは午後コーヒーを飲むと眠れなくなる。

カフェインには覚醒効果がある。しかし、あなたが食後に飲むコーヒーは肝臓で短時間に消化され、ほぼ全て（約 75%）が 4〜7 時間で消化される。従い午後 3 時にもう一杯コーヒーを飲んだとしても、あなた自身によほどの問題がなければ就寝前には全て消化されるはずである。

神話 2. あなたはコーヒー抽出には沸騰しているお湯を使わないといけない。

抽出に使うお湯の温度が華氏 200 度（93.33℃）以上の場合、お湯がコーヒー粉のビター油分（bitter oil）を抽出し始め、それを焦がすことがある。コーヒーから焦げ臭（burnt taste）がするのは抽出に特別熱いお湯を使ったことによるものである。国際癌研究機関（IARC）によると熱すぎる飲料は食道癌の原因になる可能性があるとのことである。

神話 3. コーヒーはあなたを脱水症状にする。

間違っている。正確には何故か？カップの中のコーヒーを見ると水分が含まれていることが解る。コーヒーは主に水分で構成されている。コーヒーカップの中の H_2O の成分量はカフェインの持つ脱水効果を相殺して余りあるほどの水分が含まれているのである。

神話 4. コーヒーを飲むと酔いが醒める。

アルコール神話とカフェイン神話は互いに競争しあうが、簡単に言えばこれは正しくない。即ちカフェインは酔っている人をより過敏（alert）にすることは事実だが、米国心理学協会の研究によると、コーヒーはアルコールが持つ悪い精神作用を正常に戻す効果はないとしている。レポートは更に悪い結果をもたらすとも言っている。即ち酒とコーヒーを両方飲んだ場合、神経が過敏になり何でもできる気になり、結果として車の運転や社交の場で大きな失態を招くことがあるかもしれないとのことである。

神話 5. コーヒーを飲むと体重が減る。

必ずしも正しくはない。カフェインの持つ刺激効果が少しだけ（非常に僅かだが）新陳代謝（metabolism）を促す作用があると言えなくもないが、長期的に見た場合に、これだけでは体重を減らすダイエット効果があるとは言えないだろう。カフェインはあなたの食欲を短時間抑えるが、長期間コーヒーを飲んでいると体重が減ることを示す十分な根拠はない。

神話 6. コーヒーを飲むと成長が妨げられる。

この神話は長期間存在するものだが、『コーヒーが成長を妨げる』というのは主婦の迷信の類に過ぎないものである。いつからこのような迷信が出てきたのかは定かではないが、これを裏付ける証拠は存在しない。

神話 7. カフェインは常習性が強い。

これは全く嘘とは言えないが、常習性という程ではないだろう。カフェインは人の中枢神経系（central nervous system）を刺激し、僅かではあるが依存性（dependence）がないとは言えないが禁断症状（withdrawal effects）が継続するのは1～2日に過ぎない。欲しくて叫ぶなどの伝統的常習性のイメージとは程遠いものである。

神話 8. コーヒーは貴方の健康を害する。

そんなことは全くない。それとは全く逆にハーバードのような多くの研究機関がコーヒーは体に良いという根拠を発表している。毎日適当な量のカフェイン（300ミリグラム）を摂取するには何の問題もない。もしあなたが高血圧なら、つかの間心臓がドキドキすることがあるかもしれないが、これはカフェインがコレステロール値を上昇させたり、心臓病を悪化させたからという訳ではない。

神話 9. 妊娠中の女性はコーヒーを飲んではいけない。

これには個人差があるが、妊娠中の女性はカフェイン摂取量を一日200ミリグラムまでに制限したほうが良いだろう。カフェインが胎盤を通過し胎児にまで到達するからだが、カフェインが胎児に害を与えるという具体的な証拠はこれまで存在しない。

神話 10. 全てのコーヒーは同量のカフェインを含有している。

全てのコーヒーが同じように抽出されるわけではないので、中にはとんでもなく多くカフェインが含まれているものもある。以上

2017年10月31日 スペシャルティーコーヒー協会（SCA）25マガジン：第二号

水洗アラビカコーヒーはなくなってしまうのだろうか？

水洗アラビカコーヒー需要は増えている一方、生産量はこの20年間ずっと停滞しており、世界コーヒー生産量に於けるシェアは急速に下落している。

Thomas Copple 氏は、スペシャルティーコーヒーの成功そのものがスペシャルティーコーヒーの危機を招いているのではないかと心配している。彼はコーヒーアナリストだが、かつて世界コーヒー機関（ICO）のエコノミストとして働いていたことがある。

By THOMAS COPPLE for Issue 2 of 25 Magazine

スペシャルティーコーヒー産業の生命線とも言える水洗アラビカコーヒーが危機に直面している。非水洗コーヒーの中にも素晴らしいコーヒーはあるし、スペシャルティーロブスタコーヒーも存在するが、スペシャルティーコーヒー産業の中で最も評価されているのは水洗アラビカコーヒーである。問題はこのコーヒーが限られた生産国でしか生産されないということで、その生産量がここ20年間殆ど変わらないということである。スペシャルティーコーヒー需要は継続的に増えており、また新たな新興国需要も興っていることから、このコーヒーに対する需要は益々タイトになり将来スクイズされる可能性さえあると思われる。

ブラジルとベトナムの支配

世界コーヒー需要は、年率10%以上で成長している国もあるが、全体の成長率は大凡2%である。世界コーヒー需要量は毎年記録を更新しており、今では156百万袋（60kg）にもなっており、1995年の100百万袋に比べると大幅に増加している。コーヒー需要が復活した背景にはスペシャルティーコーヒーの存在があることは明らかで、新興国市場の人口増加や経済成長もまた重要な要因だと言えるだろう。

最近 25年間でブラジルとベトナムのコーヒー生産量は倍増以上になっているが、同期間水洗アラビカコーヒー生産国の方はほぼ横這い状況で生産量は40百万袋で留まっている。結果として消費の段階では需要が増えているにも関わらず、生産段階では急速にシェアを落としているのである。

この需要増を賄うために世界のコーヒー生産量は増加したのである。即ち2000年以降世界のコーヒー生産量は30%以上増え2016年には152百万袋にまで増加した。しかしこの増加分は全ての生産国に於いて同じ割合で増えたわけではない。実際には増加分の90%がたったの2か国；ブラジルとベトナムで賄われており、今や世界生産量の50%以上がこの2国で生産されているのである。ブラジルとベトナムの生産量が増えたということはロブスタコーヒーと非水洗アラビカコーヒーが増えたということを意味している。その他のオリジン、特に水洗アラビカコーヒー生産国は生産量を増やすことに失敗したのである。

このことはスペシャルティーコーヒーにとって何を意味するのだろうか？

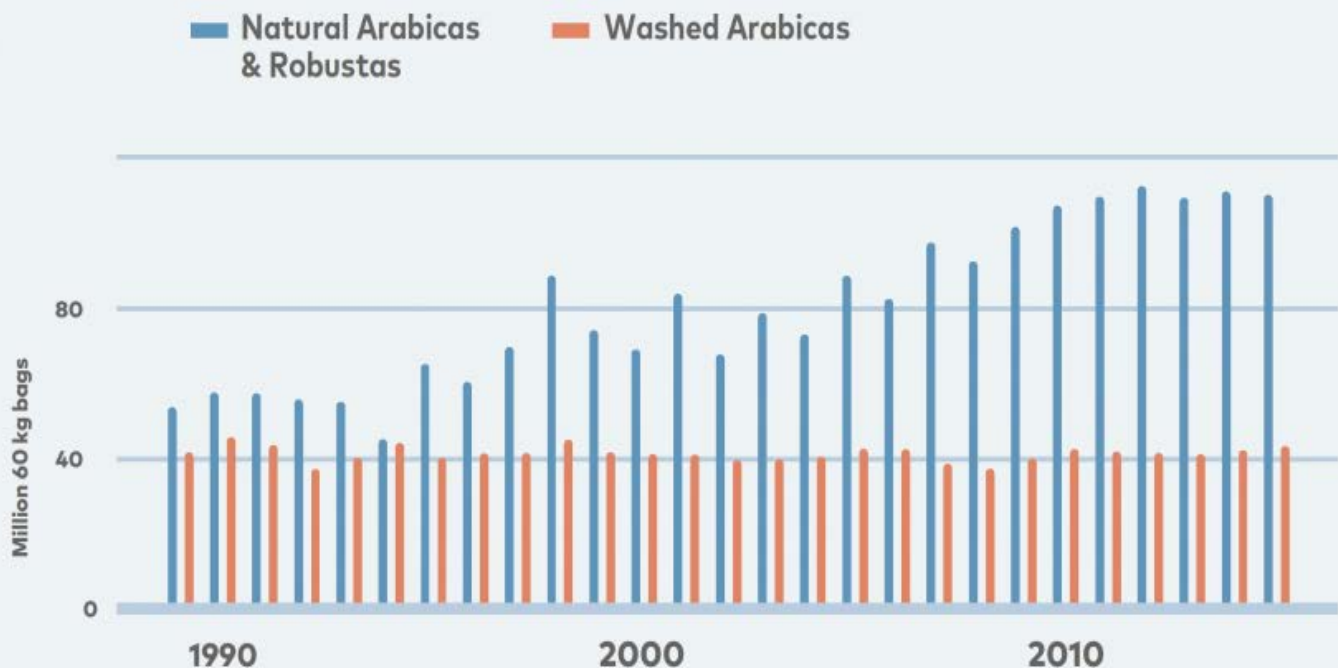
スペシャルティーコーヒーを定義（defining）したり成長率を計測したり(measuring)することは難しい。スペシャルティーコーヒーの定義は地域によって違うし、人夫々によって違うこともあるだろう。品質に関する考え方も様々で、どのように表現するかでも違って来るかもしれない。

しかし、水洗アラビカコーヒー、いわゆるコーヒートレーダーが『マイルズ（Milds）』と呼ぶコーヒー生豆は、一般的にコーヒー取引の中では最高品質の生豆と考えられており価格は最も高い。このコーヒーの特徴はクリーンでより一貫した（consistent）カップ品質を有しており、特にシングルオリジンコーヒーの味の特徴を出すのに適しているとされている。

この高品質コーヒー生豆を生産するには特別な気候条件（降水量、気温、日照）が必要で、世界で何か所かの限られた高地でのみ生産可能である。水洗アラビカコーヒーは、南米、中米、東アフリカ地域の限られた生産国でのみ生産されており最大生産国はコロンビアである。

我々が持っているスペシャルティーコーヒーの需給データは限られているので、その代わりに水洗コーヒーについて需給動向を調べることは、意味のあることと思われる。即ち、ブラジルとベトナムはこの25年間で生産量を倍増以上に増やしたが、水洗アラビカコーヒーの生産量はほぼ同じ水準の年間40百万袋に留まっている。即ち、スペシャルティーコーヒーは消費の段階では普及しているにも関わらず生産段階では急速にマーケットシェアを落としているのである。

Production of Washed Arabica coffee has flatlined since 1990, while Naturals and Robustas have supplied the market



どうしてこうなったのだろうか？

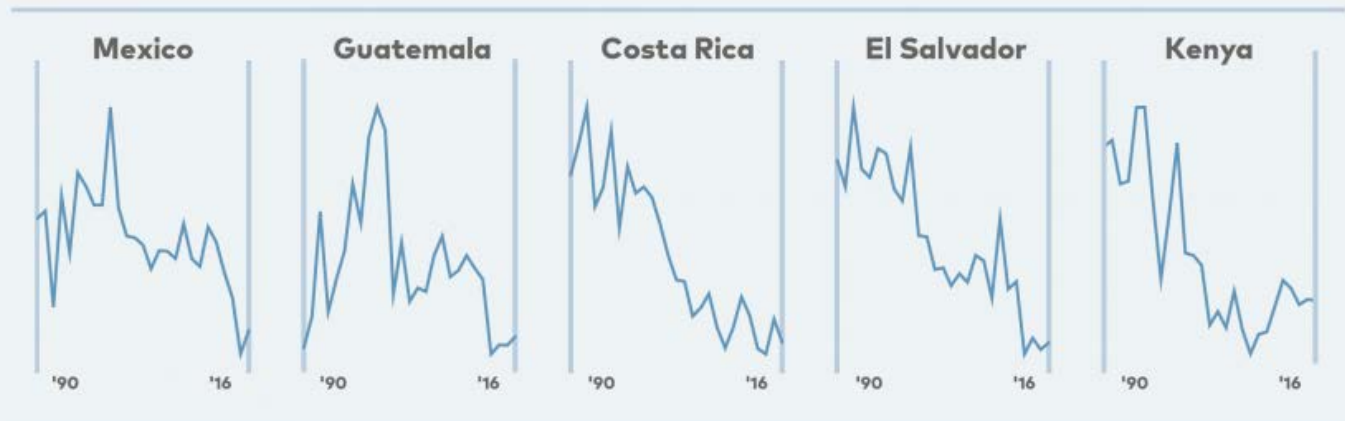
水洗アラビカコーヒーの生産が停滞した背景には多くの、様々な理由がある。生産国により事情は異なっている。例えば、コロンビアの場合、アラビカコーヒー生産量は2008年に勃発したサビ病で大減産となったが、その後の大規模で費用の掛かる再生プログラム（replanting program）のお陰でやっとサビ病以前の状態に回復出来たところである。

また2013年、サビ病が中米で蔓延した際には、中米生産国の殆ど全域にわたり被害は広がり多くの労働者が職を失い、何百万袋もの減産となった。多くの中米生産国は未だに回復できていない状況である。

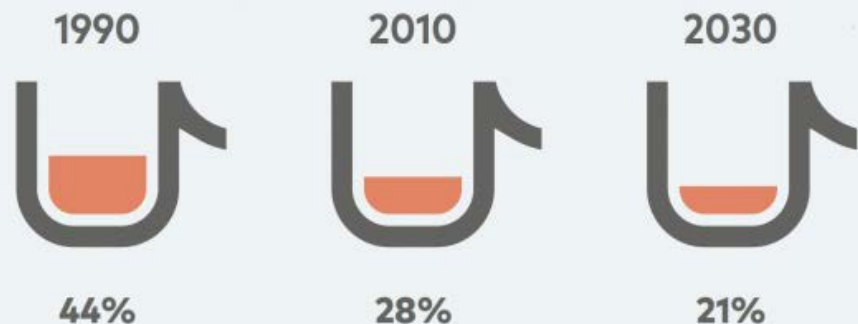
疫病やサビ病に加え、2000年代初頭のコーヒー危機（coffee crisis）の際には、コーヒーの国際価格は50セント/LBを割り込み、永遠に市場から退場せざるを得なくなるコーヒー生産国もあった。市街地の拡大に伴う不動産の需要増から土地の必要性が増し、更に他の現金作物への需要も増えた為、コーヒーは魅力のない作物になってしまった。ケニアのナイロビが良い例だが、コーヒー農家は、アパートやショッピングモール、商業施設などを建設する為にコーヒー農園を開発業者に売り渡している。

結果としてあなたの好きなコーヒーオリジンでは1990年以降コーヒー生産量が大幅にダウンしている。サルバドルは1992年の3百万袋から今日620000袋にまで減産しており、コスタリカ、ケニア、メキシコなどは全て1990年代のピーク時に比べ生産量は半減している状態である。

Several major producers have seen a collapse in output



Washed Arabicas
could make up just
21%
of the market
by 2030



コーヒー生産量が増えている国でも見通しが明るいとは言えない。エチオピアは過去25年間で生産量が倍増したが、気候変動の危機に見舞われており、英国キュー王室植物園の研究によると同国のコーヒー生産可能面積は今世紀末までにMAX60%まで減るかもしれないとのことである。ペルーとホンジュラスも増産しているが、両国とも現在サビ病問題に直面している状況である。ホンジュラスでサビ病耐性を有する新品種がサビ病に罹患したことは新たなレベルの懸念を呼んでいる。このように、水洗アラビカコーヒーの主要生産国は過去25年間夫々の道を歩んできたが、結局多くの国が惨憺たる結果に終わっている。

将来の見通し

水洗アラビカコーヒーが直面する問題は簡単に解決できるものではないと思われる。気候変動、農民の高齢化、低価格の三重苦は多くの生産者にとって既に現実問題になっている、そしてブルボン、ゲイシャ、SL28などスペシャルティーコーヒー産業で高品質品種として評価されているコーヒーもまた危機に直面しているのである。

さてここで将来を見てみよう。水洗式アラビカコーヒーが現在の生産量である年間40百万袋の水準を維持すると仮定すると、2030年末の世界コーヒー生産量全体におけるシェアはたった21%である。しかしこの数字が保証されている訳ではない。長年にわたりこの生産量水準を維持することが出来るかどうかは、2~3の限られた国の努力に負うところが大きいだろう。即ちコロンビア生産者

連合（FNC）やホンジュラスコーヒー協会（IHCAFE）のように強力な国内コーヒー生産者組織を擁する国である。

気候変動の影響がより顕著に表れるようになってくると、現在の水準を維持することは難しくなってくるだろう。コーヒー生産最適地は現在とは変わらざるを得なくなるだろう即ち、多くの場合より高地に移動し新しい農地で生産することになるだろう。コーヒー木は古くなり、生産性は落ち病気にかかりやすくなる為、農地の移動と再生が必要になってくるだろう。市街化と経済発展は土地価格を上昇させ、若年層には好条件の仕事がオファーされるので、彼らはコーヒー農家に留まりたいとは思わなくなるかもしれない。スペシャルティーコーヒー産業は更に小さくなったコーヒーパイのシェアを奪いあうことになるだろう。

我々には何が出来るのだろうか？

スペシャルティーコーヒーの将来を確かなものにするための鍵は協力（collaboration）である。即ち生産者と消費者のインセンティブが調整されるように両者の繋がりを強化することである。現在はコーヒー国際価格が内包する価格変動率（inherent volatility）と収入の予想が出来ないことが多くの生産者にとっての障害（deterrent）になっている。スペシャルティーコーヒーを本当に持続可能にするためにはバイヤーは農家を決め（農家はバイヤーを決め）、コーヒーが注文通りに効率的に生産されるようにすることである。

まずは早急にコーヒー研究（coffee research）の為に投資をする必要がある。水洗アラビカコーヒーは天候異変、気候変動、サビ病には最も脆弱なコーヒーである。まずはこれらの変化が及ぼす影響をよく理解し、そしてそれをどのように受け入れるのがベストかを考える必要がある。既に開始されている部分があるかもしれないが、それらを大々的に行うことが肝要でその為には資金が必要である。

最後に、我々はスペシャルティーコーヒー産業として高品質コーヒー消費を促進する為の努力を継続しなければならない。透明で信頼できるスペシャルティーコーヒー市場を作り、持続可能な生産を奨励し、品質に対しプレミアムを支払うことがコーヒー生産者がこの市場に留まるためのインセンティブになるのである。スペシャルティーコーヒー生産が直面している問題は差し迫った現実だが、未だ何も解決されていない。

—トピックス（3）—

2017年11月29日 スペシャルティーコーヒー協会（SCA）ニュース

＊1. Heather Ward氏寄稿

米国で何人の人がスペシャルティーコーヒーを飲んでいるのだろうか？スペシャルティーコーヒー需要とは何だろうか？またどのように成長してきたのだろうか？これらはスペシャルティーコーヒー協会（SCA）がコーヒー業者、ジャーナリスト、研究者などから受ける最も一般的な質問である。我々の知る事実は次のようなものである。

米国におけるスペシャルティーコーヒー消費は増加している、特にスペシャルティーコーヒーを毎日飲んでいる人の消費量が今年大幅に増加した。更に、過去18年間、スペシャルティーコーヒー需要は増え、毎日スペシャルティーコーヒーを飲む人の数は継続的に増加している。

もう少し詳しくデータを見てみよう。

全米コーヒー協会（NCA）は『＊2全米コーヒー需要動向調査』で1954年から継続的に全米のコーヒー消費量を調査している。この60年を超える調査は、米国のコーヒー消費動向の調査としては入手可能な最長のものである。全米コーヒー協会は全米の成人（18歳以上）を対象に、コーヒーを飲むかどうか、どれほど頻繁に飲むか、どのタイプのコーヒーかなどを調査している。調査は米国国民のコーヒー消費・形態などの重要データや動向分析などを提供している。

2001年に初めて全米コーヒー協会はスペシャルティーコーヒー消費についての調査を開始したが、その当時はスペシャルティーコーヒーを『グルメコーヒー』と呼び、『プレミアムコーヒー焙煎豆もしくは挽いた粉を抽出した熱い若しくは冷たい飲料』と定義している。

この中には、エスプレッソベースのコーヒー、アイス・フローズンブレンドコーヒー、水出しコーヒー、ガス入りアイスコーヒーなどが含まれている。

ここで重要なのは、このデータは『スペシャルティーコーヒー』について消費者の受け取りかた（consumers' perception）をベースに作られたものであるということである。スペシャルティーコーヒーが何かを決める手段は、カップング点数、欠点豆の数など様々である。しかし、これは消費者調査であり、消費者の認識に焦点を当てているものなので、もし消費者が受け入れないというなら品質をどうこう言ってもしかたないのである。

スペシャルティーコーヒーを飲んでいる米国成人のシェア

・過去18年間に亘りスペシャルティーコーヒーを毎日飲む人の数は大幅に増加した。即

ち 1999 年にはスペシャルティーコーヒーを毎日飲む人は 9%に過ぎなかったが、2017 年には 41%になっている。

- ・今年増加率は特に高く、2016 年に 31%だったものが 10 ポイントも増えている。
- ・今年毎週スペシャルティーコーヒーを飲む人の数も大幅に増えており 2016 年の 45%から 53%になっている。毎週飲む人の比率は 2001 年以降確実に増加している。
- ・時々スペシャルティーコーヒーを飲む人の数も過去 16 年間増加しており今では 60%の人が時々スペシャルティーコーヒーを飲んでいる。

米国民一人当たり、毎日何杯のスペシャルティーコーヒーを飲むか

- ・調査では毎日何杯のスペシャルティーコーヒーを飲んでいるかというものもある。
- ・2017 年に毎日スペシャルティーコーヒーを飲んでいる人の一人当たり飲用杯数は平均 2.97 杯である（2001 年には 2.24 杯だった）。

米国でのスペシャルティーコーヒーのマーケットシェア（杯数）

- ・簡潔に言うと、全米で飲まれる全コーヒー杯数の 59%はスペシャルティーコーヒーであり 41%がそうでないコーヒーである。
- ・全米コーヒー協会は 2010 年にこの調査を開始したが、同年のスペシャルティーコーヒーのマーケットシェアは 40%だったので、当時から 59%にまで増えているということである。

結局、これらの情報は消費者のよりおいしい味のコーヒーへの需要が益々増えていることを示しているものである。この傾向は別の角度から見た調査でも明らかであり、需要が減っているという兆しは見当たらない。しかし、あなたはどう思いますか？この結果にあなたや、あなたの店のお客に共鳴して頂けますか、それとも別の意見をお持ちでしょうか？スペシャルティーコーヒー消費を引き続き開拓するにあたり次に自分自身に問かける質問は何でしょう？

以上

＊ 1、HeatherWard 氏はスペシャルティーコーヒー協会（SCA）の市場調査マネージャーである。

＊ 2、『2017年全米コーヒー需要動向調査（118ページ）』は有料（595米ドル）で入手可能ですので、詳細にご興味がある方は全米コーヒー協会ホームページにアクセスの上、直接お申込みください。（全日本コーヒー協会）

—トピックス (4) —

ボゴタ、2017 年 11 月 3 日 (FNC 広報)

最近 12 か月のコロンビアコーヒー輸出量は 13.4 百万袋を超え前年同期より 8%増えた。

最近 12 カ月 (2016 年 11 月～2017 年 10 月) のコロンビアコーヒー生産量は 14.3 百万袋となり、前年同期に比べ 2%の増加となった。今暦年 (1 月～10 月) で見ると、生産量は 11.3 百万袋であり、前年同期比 1%増である。本年 10 月の生産量は、1.395 百万袋だった 2016 年 10 月に対し、1.073 百万袋であり 23%の減産となっている。

最近 12 カ月のコーヒー生産量 (60 k g 袋)

2016 年 11 月—2017 年 10 月	14.312.000 (+2%)
2015 年 11 月—2017 年 10 月	14.036.000

今暦年 10 か月間の生産量 (60 k g 袋)

2017 年 1 月—10 月	11.340.000 (+1%)
2016 年 1 月—10 月	11.260.000

2017 年 10 月の生産量 (60 k g 袋)

2017 年 10 月	1.073.000 (△23%)
2016 年 10 月	1.395.000

最近 12 か月間のコーヒー輸出量は 8%増えた。

最近 12 か月 (2016 年 11 月—2017 年 10 月) の輸出量は 13.4 百万袋を超え、前年同期の 12.4 百万袋弱に比べ 8%増加した。今暦年 10 か月間のコーヒー輸出量は 10.6 百万袋を超え、昨年同期の 10.1 百万袋に比べると 6%増加した。10 月単月の輸出量は 1.156 百万袋となり、2016 年 10 月の 1.230 百万袋に比べると 6%の減少である。

最近 12 カ月の輸出量 (60 k g 袋)

2016 年 11 月—2017 年 10 月	13.412.000 (+8%)
2015 年 11 月—2017 年 10 月	12.372.000

今暦年 10 か月の輸出量 (60 k g 袋)

2017 年 1 月—10 月	10.632.000 (+6%)
2016 年 1 月—10 月	10.065.000

2017 年 10 月の輸出量 (60 k g 袋)

2017 年 10 月	1.155.995 (△6%)
2016 年 10 月	1.230.160

以上